

2021年3月期 第2四半期

(2020年4月～2020年9月)

決算説明資料

2020年11月6日

 東洋合成工業株式会社



「当社の生命線は、
研究開発にある」

「今は形が未だ現
れざる 見えざるも
のへの挑戦」

創業者 名誉会長 木村 正輝 (90歳)

2020年 9月29日 逝去

2021年3月期 中間期 業績概要

- 期初、コロナ禍による消費低迷を懸念。しかし、巣ごもり消費、先端半導体への投資及び需要の拡大により、売上高・利益全て、前期実績・業績予想値に対し、増収・増益を達成。
- 売上高は12,835百万円（前年同期比+646百万円、+5%）。
- 利益面は、営業利益1,306百万円（+138百万円、+12%）、経常利益1,277百万円（+212百万円、+20%）、当期純利益865百万円（+171百万円、+25%）。

(百万円)	前期2Q 実績値	当期2Q 業績予想値	当期2Q 実績値	前年同期比		業績予想比	
				増減額	増減率	増減額	達成率
売上高	12,189	12,500	12,835	+646	+5%	+335	+3%
営業利益	1,168	1,150	1,306	+138	+12%	+156	+14%
経常利益	1,064	1,120	1,277	+212	+20%	+157	+14%
当期純利益	693	780	865	+171	+25%	+85	+11%
1株当たり当期純利益	87.37	98.27	109.04				
1株当たり中間配当金	10.00	10.00	10.00				
為替レート (USD)	¥108/\$	¥105/\$	¥106/\$				

2021年3月期 中間期のポイント

■売上高

- ✓ 12,835百万円（前年同期比+646百万円、+5%）
- ✓ 感光材：PAG、Polymerなどの先端半導体向け製品の販売が増加。
化成品：電子材料関連、香料材料関連製品が増加。
ロジスティック（ケミカルタンクターミナル）事業は、
一時的な溶剤需要の減退により荷動きが減少。現在は回復傾向。

■営業利益

- ✓ 1,306百万円（+138百万円、+12%）
- ✓ 全社的な高付加価値品の販売増加により、感光材の生産能力増強の
先行費用約2億円を吸収し増益。

■経常利益

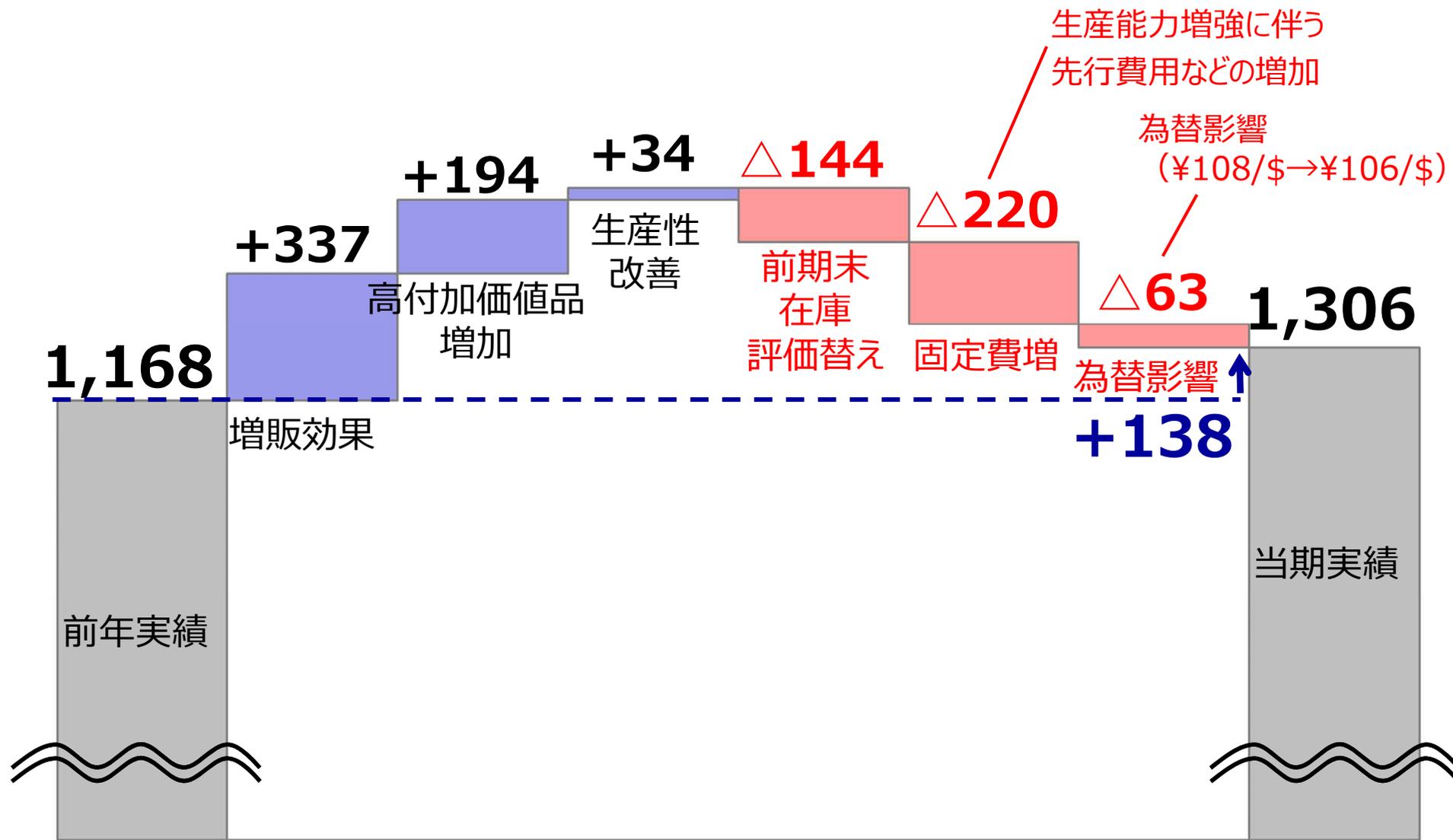
- ✓ 1,277百万円（同+212百万円、+20%）
- ✓ 営業外損益：生産能力増強投資継続による利払いなどにより、営業外の通算30百万
円の費用が発生。前年比較では、為替評価損の減少、受取保険金の増加等により、
費用負担は73百万円減少。

■当期純利益

- ✓ 865百万円（同+171百万円、+25%）

営業利益 前年比増減要因

- 販売や高付加価値品の増加による利益増により、成長投資の固定費増を吸収し、増益

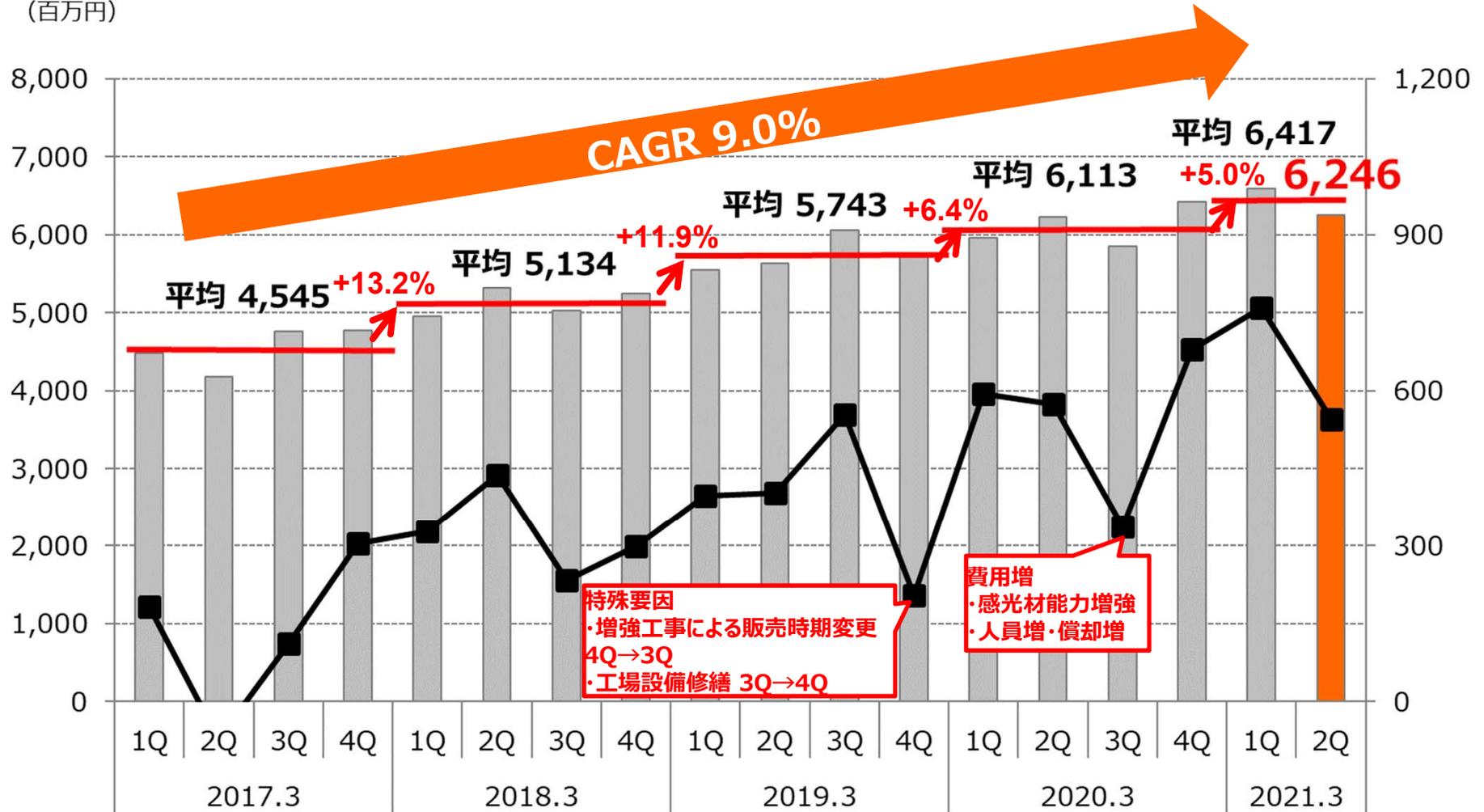


四半期別 売上高・営業利益推移

- 売上・利益水準は着実に成長（CAGR9.0%）。
- しかしながら設備投資の継続により借入も増加（後述）。

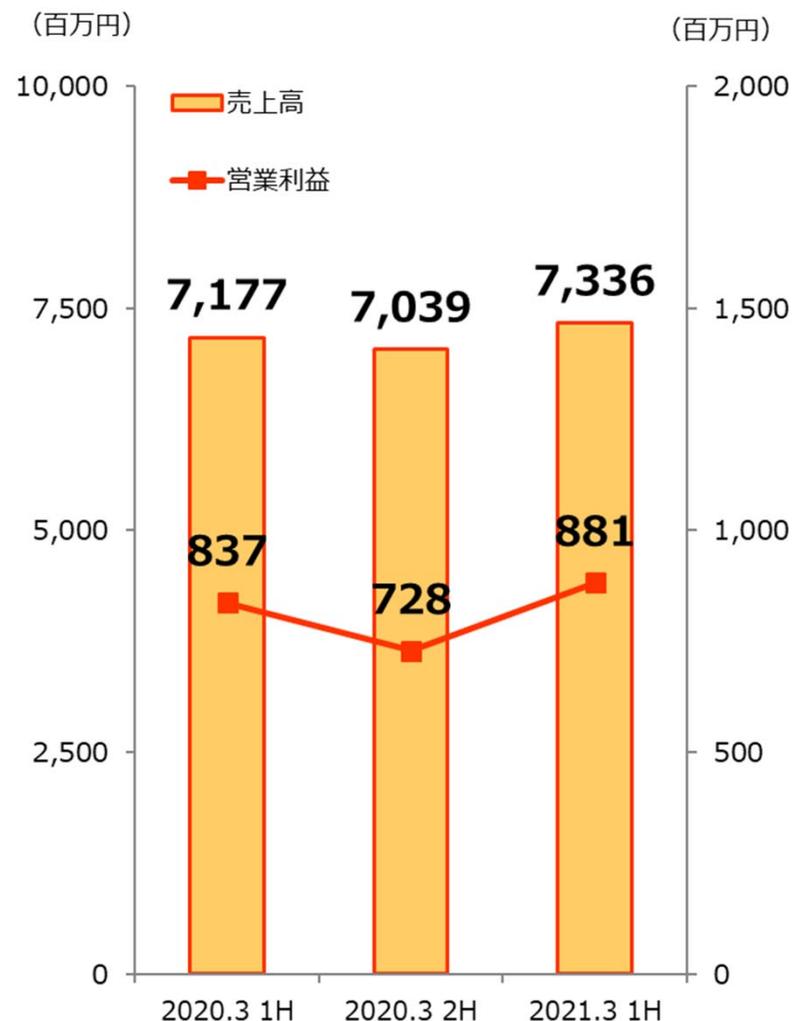
四半期別 売上高・営業利益 推移

(百万円)



感光性材料セグメント

売上高・営業利益



売上高：7,336百万円

(前年比+158百万円、+2%)

- 先端半導体(EUV、ArF)向け感光材が好調に推移。

営業利益：881百万円

(前年比+44百万円、+5%)

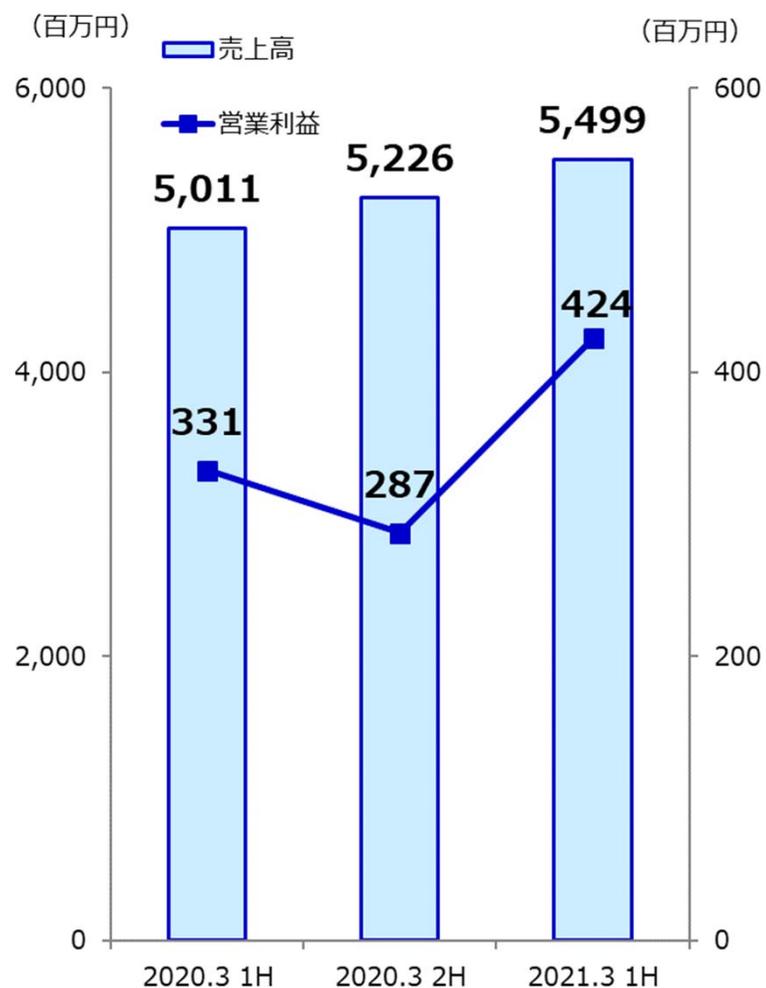
- 設備増強に伴い、労務費、減価償却費が増加したものの、高付加価値品の販売増により増益。

設備投資：

- 第4感光材工場 2020年10月19日竣工

化成品セグメント

売上高・営業利益



売上高：5,499百万円

(前年比+487百万円、+10%)

- 電子材料関連が増加、香料材料関連製品は堅調推移。
- ケミカルタンクターミナル事業の売上は、溶剤の荷動き鈍化により減少。

営業利益：424百万円

(前年同期比+93百万円、+28%)

- 電子材料向け高付加価値製品へのシフト加速。
- 香料材料は、販売増により増益。

2021年3月期 中間期 損益計算書

- 売上高は、12,835百万円（+646百万円、+5%）の増収。
- 売上総利益は、高付加価値製品の販売増加により、設備増強などによる費用増を吸収し、2,919百万円（+215百万円、+8%）。

(百万円)	2020.3期 2Q	2021.3期 2Q	増減額	増減率
売上高	12,189	12,835	+646	+5%
売上原価	9,485	9,916	+430	+5%
売上総利益	2,703	2,919	+215	+8%
販売管理費	1,535	1,612	+76	+5%
営業利益	1,168	1,306	+138	+12%
営業外収益	34	69	+35	+103%
営業外費用	137	98	△38	△28%
経常利益	1,064	1,277	+212	+20%
特別損益	△33	△16	+17	+51%
税引前当期純利益	1,031	1,261	+230	+22%
法人税等合計	337	396	△58	+17%
当期純利益	693	865	+171	+25%

[売上総利益 +215]
高付加価値製品が増加し、
売上総利益率が改善
(22.2%→22.7%)

[営業外収益 +35
営業外費用 △38]
受取保険金 35、
為替差損 29

2021年3月期 中間期 キャッシュフロー計算書

- 営業CF：2,165百万円（+519百万円、+32%） 販売拡大による収益増、及び運転資金改善により、設備投資継続に向け営業CF拡大。
- 投資CF：△4,729百万円 感光材設備増強投資の実行により支出増加。
- 財務CF：2,711百万円 設備投資資金の確保。

	2020.3期 2Q	2021.3期 2Q	増減額
営業活動によるCF	1,645	2,165	+519
税金等調整前純利益	1,031	1,261	+230
減価償却費	1,063	1,087	+24
売掛債権の増減額（+は減少）	64	581	+517
棚卸資産の増減額（+は減少）	△340	△507	△167
仕入債務の増減額（+は増加）	△344	356	+700
その他	172	△613	△785
投資活動によるCF	△3,293	△4,729	△1,436
フリー・キャッシュフロー	△1,647	△2,564	△916
財務活動によるCF	△499	2,711	+3,211
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△30	△16	+13
現金及び現金同等物の増減	△2,177	130	+2,308
現金及び現金同等物の期末残高	2,822	3,301	+478

← 運転資金を改善

[投資CF △4,729]
感光材の生産能力増強を
継続

2021年3月期 中間期 バランスシート

- 感光材の先行設備投資により、有形固定資産+1,227百万円、有利子負債は+2,856百万円増加し21,044百万円。今後、高付加価値品の需要拡大に伴い、投資設備の稼働率向上を狙う。
- 株主資本は、当期純利益の増加により、785百万円の増加。自己資本比率27.7% (+0.7pt)

(百万円)	2020.3末	2021.9末	増減額
流動資産	15,503	16,011	+508
現金預金	3,582	3,713	+130
売上債権	4,654	4,073	△581
棚卸資産	7,019	7,527	+507
その他	246	697	+451
固定資産	23,627	24,996	+1,369
有形固定資産	22,112	23,340	+1,227
無形固定資産	407	484	+77
投資・その他	1,107	1,171	+64
資産合計	39,130	41,008	+1,878
負債	28,561	29,640	+1,079
仕入債務	3,000	3,356	+356
有利子負債	18,188	21,044	+2,856
その他	7,372	5,238	△2,133
純資産	10,569	11,368	+798
株主資本	10,563	11,349	+785
評価・換算差額等	5	18	+12
負債・純資産合計	39,130	41,008	+1,878

[有形固定資産+1,227]
[有利子負債+2,856]
感光材の設備能力増強投資
により増加

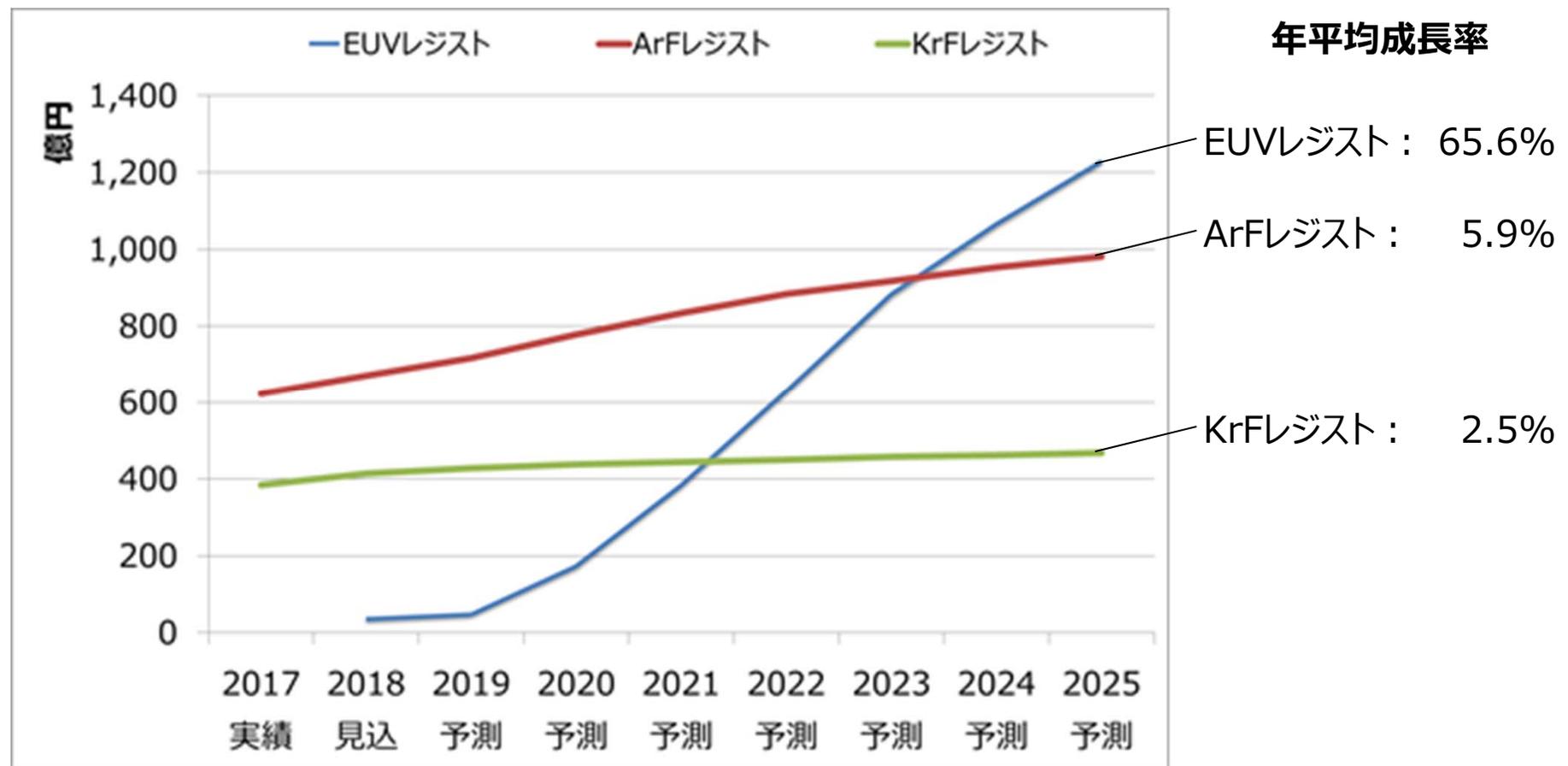
[自己資本比率]
27.7% (前期末比+0.7pt)

今後の見通しと

2021年3月期 業績予想

フォトレジスト市場

- EUVレジストは、2019年に量産開始、以降需要は堅調に推移。
- 2021年は前年比2倍、2022年は1.5倍、2023年は1.2倍と拡大見込み。



出所：(株)富士キメラ総研「A（オングストローム）半導体プロセス材料／技術の展望調査（2018年7月）」より当社作成

フォトレジストの構成

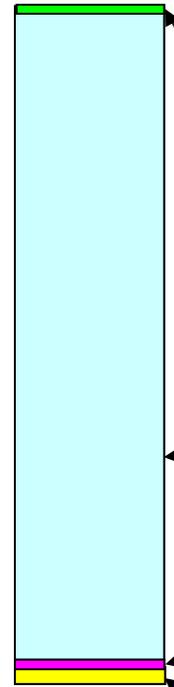
- 当社は、半導体・FPDの製造に使われるキーマテリアルを製造



フォトレジスト（液体）

※レジストメーカーにて調合。

一般的な
フォトレジストの
構成割合



計 100%



感光材

添加剤（界面活性剤 etc.）

高純度溶剤（PGMEA, EL etc.）

※化成品事業の製品

感光材

PAG: Photo Acid Generator（光酸発生剤）

PAC: Photo Acid Compound

ポリマーに対して数% ~ 10数%

ポリマー（レジスト樹脂、ベースポリマー）

数% ~ 10数%

当社製品

2020年 グローバルニッチトップ受賞

グローバル市場でもトップクラスのマーケットシェアを保有する独自性の高い製品・サービスを開発する企業として、経済産業省認定「2020年版グローバルニッチトップ(GNT)企業100選（素材・化学部門）」に選定されました。



経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

申請・お問合せ English サイトマップ 本文へ 文字サイズ変更 小 中 大 アクセシビリティ 閲覧支援ツール

ニュースリリース 会見・談話 審議会・研究会 統計 政策について 経済産業省 について

ホーム ▶ ニュースリリース ▶ ニュースリリースアーカイブ ▶ 2020年度6月一覧 ▶ 2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」を選定しました

印刷

2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」を選定しました

2020年6月30日

▶ ものづくり/情報/流通・サービス

経済産業省は、世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業や、国際情勢の変化の中でサプライチェーン上の重要性を増している部素材等の事業を有する優良な企業113社を、2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」として選定しました。

1. 2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」について

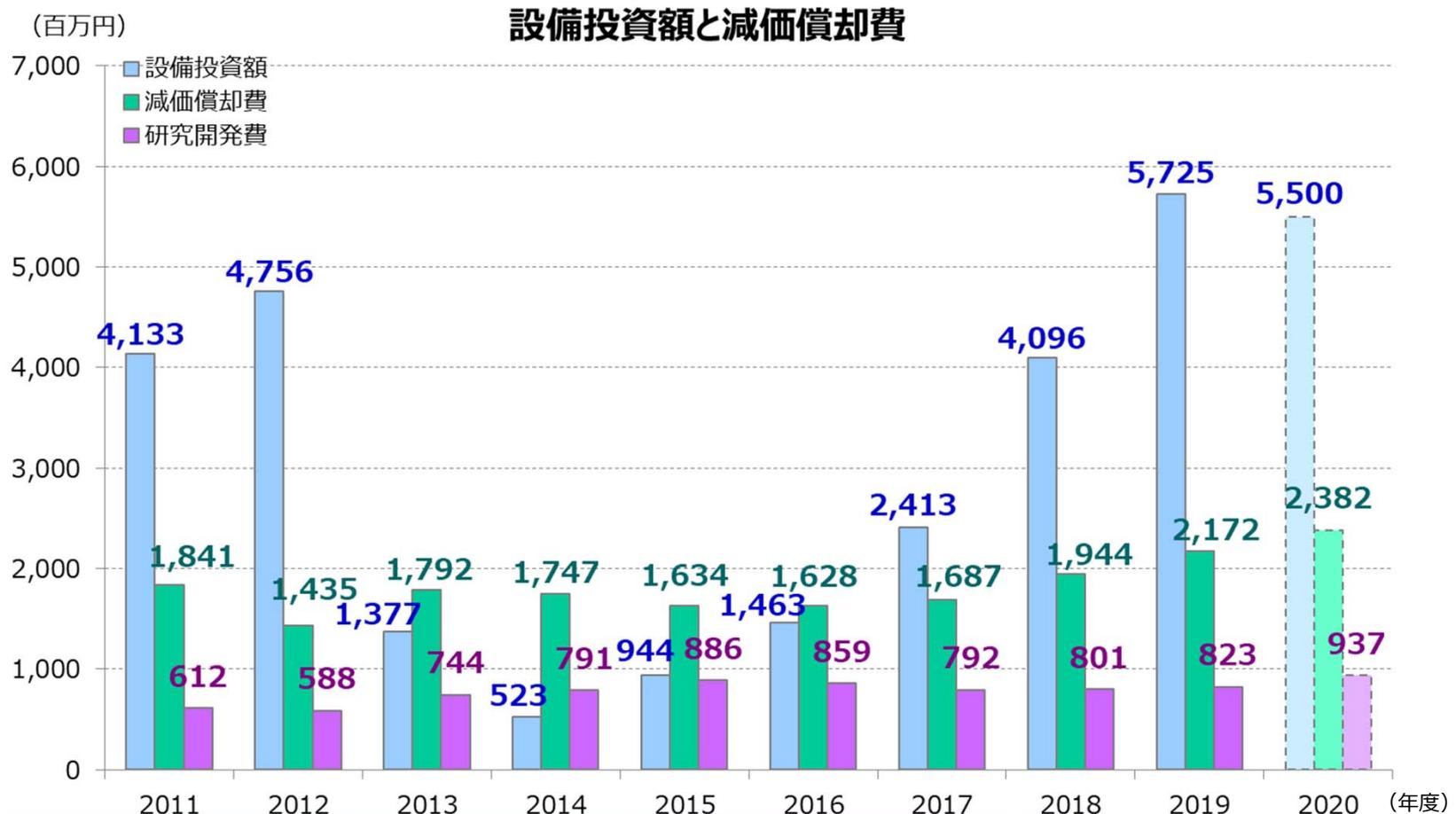
前回（2013年度）に実施した「グローバルニッチトップ企業100選」の後、デジタル経済の進展や世界の政治経済情勢の変動、少子高齢化のような社会構造変化など、日本企業を取り巻く事業環境は変化してきています。

こうした状況を踏まえ、新たな厳しい経済環境の中においてもニッチ分野で勝ち抜いている企業や、サプライチェーン上の重要性を増している部素材等の事業を有する企業などを、2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」として新たに公募し、選定を行いました。



設備投資・減価償却・研究開発の推移

- 電子材料の需要拡大に伴い、2017年から生産能力増強投資を継続
- 2020年度の設備投資は第4感光材工場の竣工もあり、前期同水準の約55億円を計画



感光材の生産能力増強～第4感光材工場



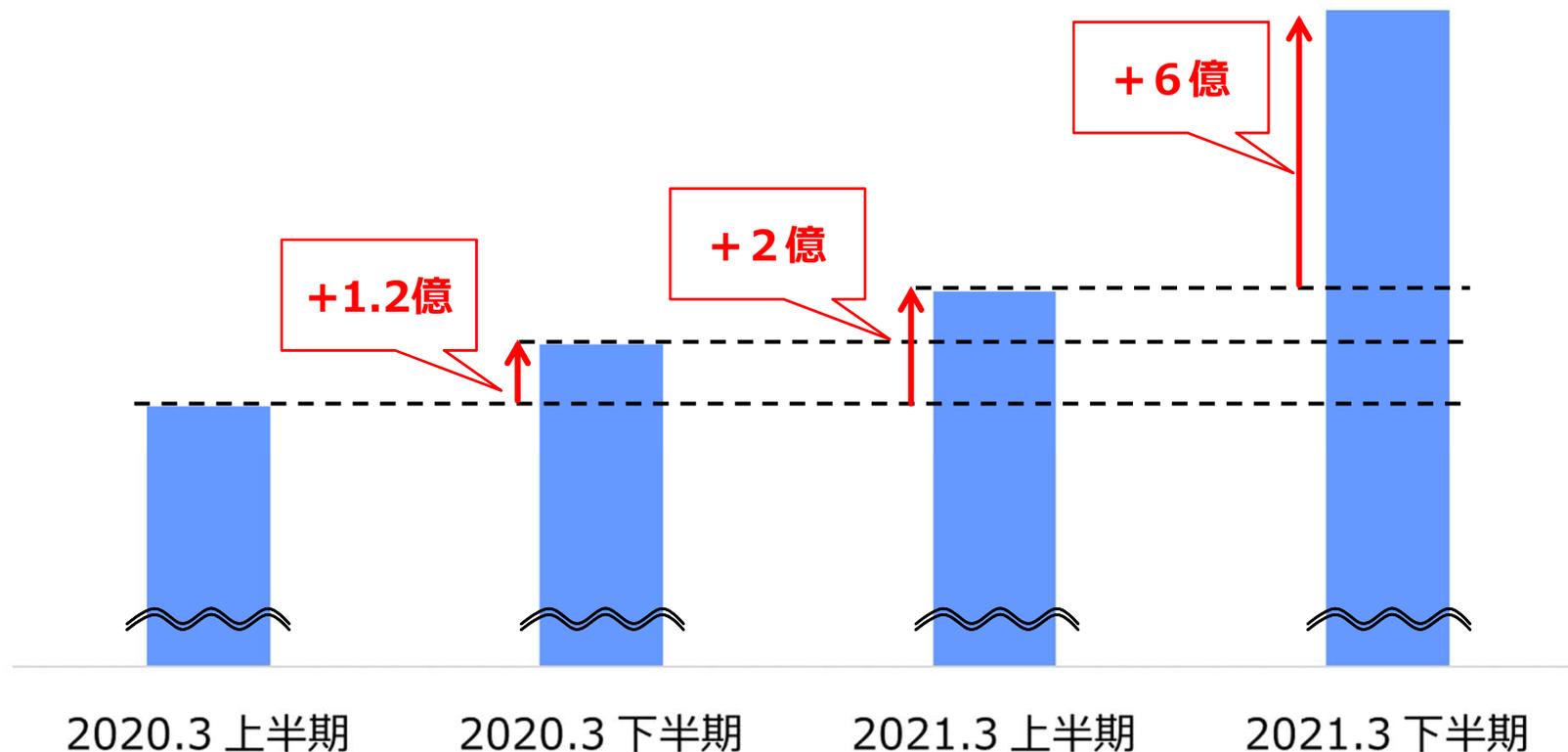
千葉工場に第4感光材工場が10月18日に竣工。

今下期は費用先行の製品認定期間となり、収益寄与は来期以降の見込み。

生産能力増強などに伴う固定費上昇

感光材の生産能力増強投資の継続などもあり、上期同士の比較では2億円の上昇、2021.3下期は今上期に比べ、固定費はさらに約6億円の上昇の見込み。

固定費推移イメージ



2021年3月期 業績予想

- 各利益ともに業績予想に対し、順調に進捗。
- 固定費は通期で前期比8億円増加、下期は上期比約6億円増加見込み。
- 先端半導体向け（感光材・化成品）を中心に販売増加を見込む。
- 想定為替レートは ¥105/\$。1株当たり配当金額は、年間20円から変更なし。

(百万円)	2021.3 業績予想	2020.9 実績	進捗率
売上高	25,000	12,835	51%
営業利益	1,950	1,306	67%
経常利益	1,870	1,277	68%
当期純利益	1,260	865	69%
1株当たり当期純利益	158.75	109.04	
為替レート (USD)	¥105/\$	¥106/\$	

足元の事業環境と需要

- 現時点では、新型コロナウイルス関連のリスク影響は顕在化なし。
- 但し、コロナ感染拡大を含め、不安定な国際政治状況は継続。

① 先端半導体（KrF、ArF、EUV）

- ✓ メモリ、ロジック等の好調が続く見通し（感光材・EL溶剤）。
- ✓ 先端半導体向け半導体の設備投資が継続

② 汎用半導体（g-i線）

- ✓ 足元は、コロナ影響により調整が続くが、自動車生産などは中国を中心に回復傾向。

③ ディ스플레이

- ✓ 面積需要は中期的に緩やかに拡大する見通し。

④ 香料材料

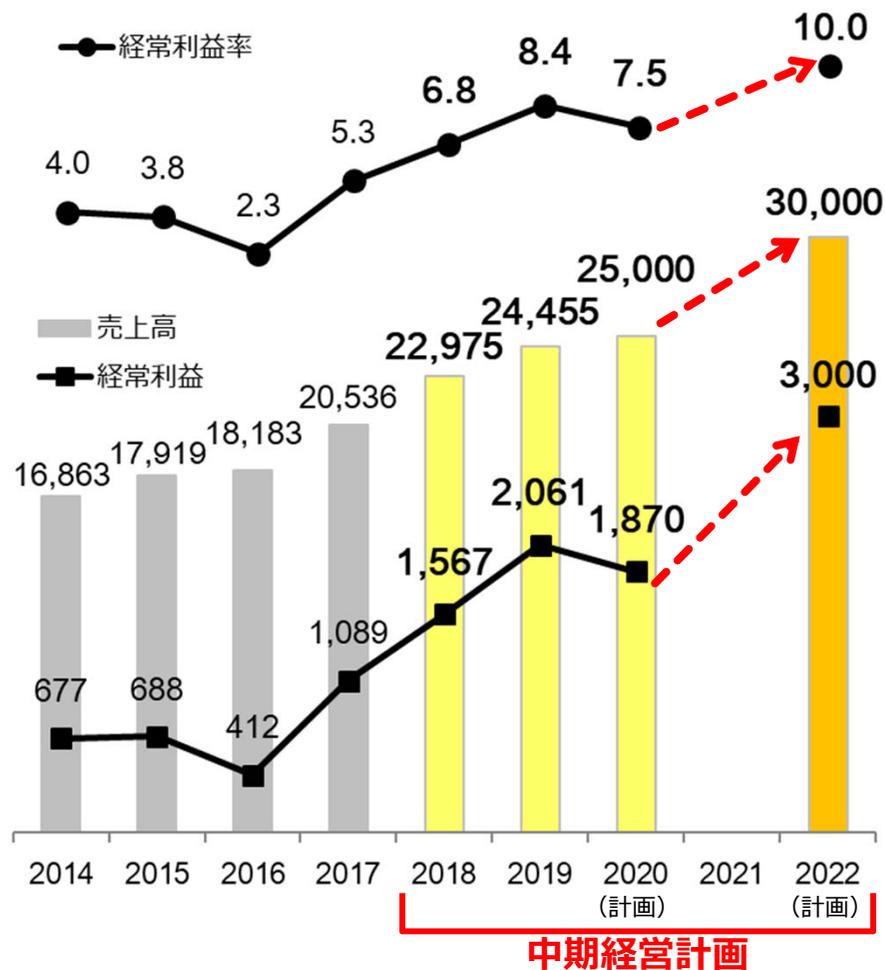
- ✓ トイレタリー関係を中心とした需要は堅調。

⑤ ケミカルタンクターミナル

- ✓ 在庫調整はあるものの、需要は上向き傾向。タンクは高稼働維持。

中期経営計画の達成に向けて

- 中期経営計画「TGC300：2023年3月期 売上高300億円、経常利益30億円、経常利益率10%以上」は、現時点で変更無し。



- 電子材料の供給拡大に向けた設備増強や需要獲得も計画通り進行。
 - ✓ 第4感光材工場が竣工 (2020年10月)
- 中期経営計画の達成に向け、引き続き全社一丸となり取り組んで参ります。

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

 **東洋合成工業株式会社**

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。